

停滞させないものづくりと全作業の標準出来高を基準にした生産方式の導入

株式会社南都衛材製作所（奈良県）

奈良県有数の商人の町、今井町で52年に亘り縫製に携わる事業を遂行されている。

1. 相談のきっかけ

事業は縫製を中心に女性且つ海外研修生を主体としたものづくりである、又工場長も女性であるという点で工場運営面での悩みも多く、特に生産性面においてどのような管理と対応をする事が必要であるかについて専門的視点からアドバイスが必要という事で支援を開始した。

2. 課題整理・分析

経営及び製造管理指標の詳細分析と課題から改善の視点を明確化させる
製造原価改善
(外注費及び内部人件費・生産性)
管理体制及び仕組み
(経営数値の効果的監視)
生産管理・工程管理改善
(納期遅れと生産指示の最適化)
工程編成とレイアウト改善
(ものづくりの動線と職場環境)

3. 解決策の提案

テーマは生産性向上、過去3ヶ月間の工程実績を基に改善の切り口を明確化且つ共有化する

明確化させる内容

- ・工程バラツキと標準時間
- ・ボトルネック工程と能力
- ・チャンピオン工数
- タイムテーブル生産導入
- ・全工程の時間生産高決定
- ・担当別時間割り決定
- 工程編成とレイアウト
- ・5Sの推進と直線ものづくりの実現



4. 成果

生産管理の視点から全工程の出来高及び稼働状況を細部にわたり分析、その結果全作業の標準工数・時間あたりの出来高を標準化させる事で担当単位で生産タイムテーブルを作成、実践、定着化を図る又工程編成・レイアウトにおいても種々の改善を行う
具体的には

「仕組み面において」

- タイムテーブル生産計画の導入
- 個人別目標の明確化と多能工化推進

「工程編成とレイアウトにおいて」

- 工程在庫の削減によるスペース捻出
- 限定品種専用レイアウト化
- 直線的生産レイアウトの実現

定量成果: 時間あたりの生産出来高を約140%の実現
定性成果: 生産性に対する意欲の向上と品質に対する自己責任意識が強固となる対応が図れた。



植田常務取締役と平塚工場長



最新設備と匠の技術の融合